手動油圧式パンチ
取扱説明書

このたびは、手動油圧式パンチをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。製品を正しく安全にお使いいただくために、ご使用の前に必ずこの「取扱説明書」をよくお読みください。お読みになった後は、いつでもご確認できるよう大切に保管してご利用ください。
手動油圧式パンチを正しく利用し、人体や財産への損害を未然に防止するため、使い方や設置の仕方の誤ったときに生じる、危害や損害の程度により次の表示で区分し、説明しています。

1. はじめに

●下記マークのある注意事項及び、指示内容に関しては必ずお守りください。
⚠警告　この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容を表しています。
⚠注意　この表示の欄は「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容を表しています。
●取り扱い上の不備または天災などによって発生する事故、損傷に付いて、当社は一切責任を負いかねます。
●本製品は品質改良のため、仕様を変更することがございます。
その際には、この取扱説明書の内容・イラストの一部が本製品と一致しない場合がありますので、ご了承願います。
●この取扱説明書の作成にあたり万全を期しておりますが、万一の誤りや記載もれなどが発覚してもただちに修正できないことがあります。

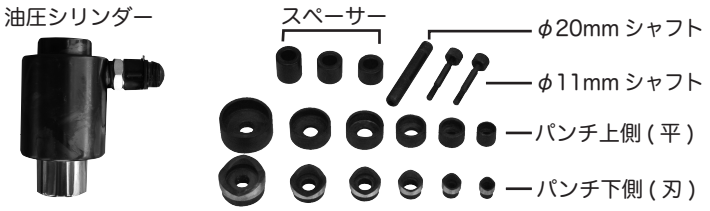
2. 安全上のご注意

⚠ 警告
● 過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できないとき、お酒を飲んだとき、妊娠しているときなどは作業しないでください。
●作業時は安全靴、ヘルメット、保護マスク、保護めがね、保護服、保護グローブなどを着用してください。
●作業中は作業者以外の人を近づけないでください。
●使用前に、本器に異常がないか点検してください。破損や異常が有る場合は絶対に使用しないでください。
⚠ 注意
● 傷害事故防止のため使用前に必ず取り扱い説明書をよく読み、ご理解ください。
●機械の使用目的以外の使用及び改造は行わないでください。
●作業中は監視できる範囲内で作業を行ってください。
周囲の安全を確認し、作業を行ってください。
●本製品の目的外使用及び改造は絶対にしないでください。

3. 仕様･各部名称

最大穴開能力
●スチール：1.2mm
●銅　板：3.0mm
●アルミ：5.0mm

※材料の配合や処理によって若干変わる場合がございます。



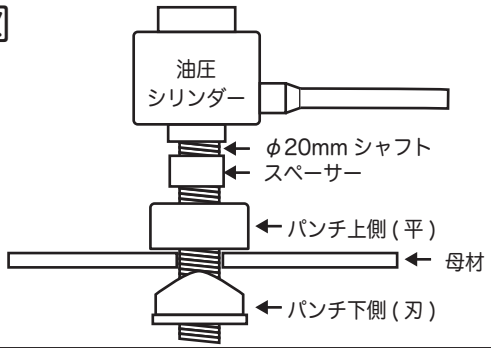
〈仕 様〉
●能力：10ton
●穴径：φ22・27・φ34・43・49・60mm
●ストローク：20mm
●ホース長さ：690mm
※ご使用には､Φ12・22mmの下穴が必要になります。

〈セット内容〉
●Φ22・27・34・43・49・60mm用パンチ × 各 1 セット
●Φ11mm シャフト ×2 本
●Φ20mm シャフト ×1 本
●スペーサー (25・30・38mm) 各 1 コ
●O リング ×5 本
●テフロンリング ×3 本
●ナイロンリング ×1 本

4. 使用方法

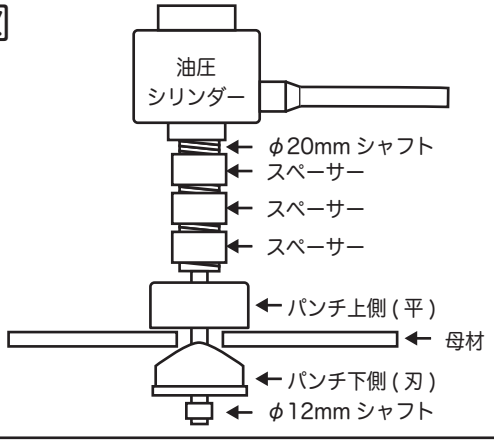
【φ34・43・49・60mm の場合】
①保護キャップを外し油圧ポンプと油圧シリンダーを接続します。
②母材にドリル等を使用しシャフトを通す下穴φ22mmをあけてください。
③油圧シリンダーにφ20mm シャフトを取付けください。
※穴のあいてる方が下側になります。
④シャフトにスペーサーと、パンチ上側 (平) を通し、母材の穴に通してください。
※スペーサーは３種類のあるので用途に合わせて使用してください。
⑤シャフトの反対側よりパンチ下側 (刃) を取付けてください。
※取付けて際は手で回る所まで締めてください。
⑥油圧ポンプのバルブを締めてポンプのハンドル部分を上下に押すと圧力がかかりますので穴があくまで繰り返してください。
⑦穴があきましたら油圧ポンプのバルブを開放し圧力が完全に抜けてから取外してください。※返りが出てる場合がありあますので注意してください。

組立図



【φ22・27mm の場合】
①油圧ポンプと油圧シリンダーを接続します。
②母材にドリル等を使用しシャフトを通す下穴φ12mmをあけてください。
③油圧シリンダーにφ20mm シャフトを取付けてください。
※穴のあいてる方が下側になります。
④シャフトに付属のスペーサー３個を通し､φ20mm シャフトの穴にφ12mm シャフトを取付けてください。
⑤パンチ上側 (平) を通して母材の穴にシャフトを通してください。
⑤最後にシャフトの反対側よりパンチ下側 (刃) を通しシャフトのねじを締めてください。※ねじ込みの際は手で回る所まで締めてください。
⑥油圧ポンプのバルブを締めてポンプのハンドル部分を上下に押すと圧力がかかりますので穴があくまで繰り返してください。
⑦穴があいたら油圧ポンプのバルブを開放し圧力が完全に抜けてから取外してください。※返りが出てる場合がありあますので注意してください。

組立図



※油圧ポンプとの接続をきりはなす場合は、油圧シリンダーのハンドルを一番下までおろし、必ずバルブを閉じてください。
※バルブを閉じないで切り離すと油が漏れますのでご注意ください。
保管の場合は必ず保護キャップを取付てください。